

(1) 1年次(令和2年度)の実践

オ 防災教育の実践 ～寮務部～

- ・視覚生と聴覚生の生活する寄宿舍
- ・厨房があり、地震・火災や昼夜を問わない臨機応変な対応が求められる
- ・アドバイザーより避難場所の検討助言



「被災状況を伝える」「避難方法を判断する」訓練の実施
「夜間」の避難訓練の実施

(1) 1年次(令和2年度)の実践

カ 職員研修

◇被災時の係でのシミュレーション

→役割と内容の確認

◇アドバイザー(木宮先生)

防災講演会 → 一人一人が危機管理を行う

「ベストではなくベターを」



2) 2年次(令和3年度)の実践

ア 地域との連携・理解推進

イ 保護者への啓発活動と共通理解に向けて

ウ 防災意識を高める避難訓練

エ 専門家に学ぶ・共に考える

～引き渡し訓練 現状と課題～

オ 防災教育の実践

カ 職員研修






(2) 2年次 (令和3年度) の実践

ア 地域との連携・理解推進

◇学校評議員：本校の防災教育について共有 発災時に表示する旗について

お知らせ

万が一、地震が発災した際は学校の被災状況を色分けした旗でお知らせします。正門付近に掲示しますので、避難時の行動に役立ててください。

青旗		大きな被害はない。
黄旗		大きな被害はないが、学校（避難所）としての機能を復旧させる必要がある。
赤旗		建物が被害を受け、建物への入室を 禁止 する。

◇地域周辺住民向け：防災だよりを配布



(2) 2年次(令和3年度)の実践

ア 地域との連携・理解推進

◇西豊田学区防災連絡会議(12月)

近隣の学校の役割

- 西豊田小学校:拠点救護所**
- 豊田中学校 :体育館を避難所として開放**
- 本校 :福祉避難所**

(2) 2年次(令和3年度)の実践

イ 保護者への啓発・共通理解にむけて

◇福祉避難所についての説明会(4月)

**静岡県中部地域局より説明
本校防災教育取り組み報告**



(2) 2年次(令和3年度)の実践

イ 保護者への啓発・共通理解にむけて

◇防災だよりの発行

- 備蓄品の確認依頼
- 防災食紹介
- 地域防災情報

◇親子非常食体験



(2) 2年次(令和3年度)の実践

イ 保護者への啓発・共通理解にむけて

◇引き渡し訓練(総合防災訓練:11月)

想定:南海トラフ地震

情報伝達方法:マチコミ

待機及び引き渡し場所:

寄宿舍



(2) 2年次(令和3年度)の実践

ウ 防災意識を高める避難訓練

◇校舎内避難の方法(全校)

各フロアごとに集合→代表が報告

学部独自の防災訓練(幼小学部)

→ 緊急地震速報

→ 友達とともに



(2) 2年次(令和3年度)の実践

ウ 防災意識を高める避難訓練

◇シェイクアウト訓練

緊急地震速報を聞き、
1秒でも早く各自の行動に移す。
「そのときにいる場所」での訓練

年間を通して繰り返し取り組んだ
合計7回



(2) 2年次 (令和3年度) の実践

エ 専門家に学ぶ

～引き渡し訓練から見えた検討課題～

◇防災講演会

「人とつながる防災教育」

- ・双方向のやりとりを通して、共に考え、指導助言を。

**今までやっていたことに疑問を持つ！
少数意見に耳を傾ける。
アイデアを出す。**



(2) 2年次(令和3年度)の実践

エ 専門家に学ぶ

～引き渡し訓練から見えた検討課題～

◇大分県の学校の防災訓練ビデオを見て・・・

- ・事前の準備や災害が起きた時の想定がされている
 - ・対策本部と指示系統が確立されている
 - ・管理職だけでなく、状況に合わせて自分が指示を出せるか
 - ・自覚と責任を持って行動している
 - ・引き渡しの際に保護者との写真は有効
 - ・誰が生き残れるかわからないからこそ、誰もが指揮できるように
 - ・時系列に沿った訓練。本校も整理したい。
 - ・本校の訓練のやり方と違って不安になった。他校のやり方も参考に改善していく必要がある
- 等

(2) 2年次 (令和3年度) の実践

才 防災教育の実践

令和3年度学校防災全体計画(案) (幼小中高・寄宿舎)

2021.4.22 現在

目標: 地震災害において、適切に判断をし、命を守ることができる。

日時	避難訓練	職員研修	小学部	中学部	高等部	寄宿舎	PTA	地域	市県
目指す姿	☆前半: 初動体制が取れる。 後半: 非常食が食べられる。	☆適切な判断ができる。 ☆知識を増やすことができる。	☆自分の身を守ることができる。	☆学校(下校時、家庭等)での自分の身の守り方が分かる。 ☆災害とはどんなものか知る。	・各自の判断で自分の身を守ることができる。 ・各自に合った非常食や防災グッズを選定することができる。	☆自分で身を守ることができる。	一子こも一様に居住地域に合った非常食を取り入れることができる	・季節を知り、避難所避難時の服装ができる。 ・避難所の広さを知る。	・避難所の場所を知る。 ・避難所での広さを知る。
4月	・避難経路確認 ・第一回避難訓練 ・避難訓練・地震	・第一回・二回・三回職員研修 本校の様子 本校の避難訓練についてクラス内の安全な場所 教職員としての知識 学部ごとの防災計画(授業計画)	・学部で毎月1回シェイクアウト訓練 ・各組ごと、避難方法、避難経路の確認(地震時の対応、避難時の注意事項、校内避難場所、火災時避難経路等) ・生単G・2組: シェイクアウト訓練(前期こ1回)防災グッズの体験と非常食体験(前期こ一か月間特別活動で) ・生単G: 学校探検	<総合>下校時のルート確認 および危険箇所等の確認 ・柚木、新静岡、バスの中など・危ない箇所を調べて写真を撮る。	・地震への対応確認 ・火災時、避難時の避難経路の確認(歩行) ・第一回避難訓練(地震) (4/16)地震・火災時の避難行動確認 (4/20)地震避難訓練	【舎生/職員】 ・防災・防犯オリエンテーション(避難行動、経路の確認)			
5月	・第二回避難訓練 地震・火災避難訓練 防災体験学習・煙体験	・第4回職員研修(舎中心)火災時の避難について	学習指導要領からの例 ・理科: 地震の仕組みや火の消し方(燃え方) ・生単・社会: 身の周りの安全・学校探検・地図作り ・道徳: 命について ・音楽: 笛を吹く ・国語: 防災ポスター作り ・ICT教育: 防災情報 ・家庭科: 防災食、防災グッズの体験 ・英語: 英語: 伝えるカード作り ・体育: 体方づくり ・社会: 消防署、警察署(3年生) 自然災害、地域の安全、生活保護(4年生) 地方公共団体(消防団、防災センター)の年生 *伝える方として、大きな声を出す、動作を修正	<総合>火災時に気をつけること 学校のことと合わせて家で起きたら、どうするか。	(5/20)第二回避難訓練(防災体験学習) (5/14)地震防災センター見学 (5/7)防災授業 防災センターについて、地震・津波のメカニズム。 (5/21)地震防災センター見学の報告会 (6/24)第三回避難訓練(地震抜き打ち)	【舎生】 ・第一回避難訓練(地震) 緊急地震速報後の初動訓練 【職員】 ・職員研修(講師を招いて)			
6月	・第三回 避難訓練・地震 緊急時避難訓練			<社会>家の周りについて(地理) 避難地はどこか、家ではどのようにしているか等。		【舎生】 ・第二回避難訓練(火災)			
7月		・第5回職員研修 被災職員の講話(宮城官 zoom)		国語: 防災からた 数学: 正負の数 池袋から取り 理科: 地震のメカニズム 体育: 速く走って逃げる方 英語: 防災教育課程の中の命を守る英語で表現する「考えよう防災」		【舎生】 ・第三回避難訓練(地震) 緊急地震速報後の初動訓練			
8月	・第四回 避難訓練・地震 引き渡し訓練				第四回避難訓練(地震)	【職員】 ・防災学習会		・本校を使っ ての訓練	
9月	・第五回 避難訓練・総合 引き渡し	・第6回職員研修 総合防災訓練 木宮 数授参観	・生単G・2組: 防災グッズの体験と非常食体験 (後期こ一か月間特別活動で)	地震防災センター見学(下旬) <理科>天気(台風仕組み)地震変動(地震) <技術・家庭>安全で快適な室内環境、よりよいすまい方。	第五回避難訓練(地震)	【舎生】 ・第四回避難訓練 (防災学習会) クロスロード			
10月			・生単G・2組: シェイクアウト訓練(後期こ1回) ・教科G(4、6年): 防災センターに体験学習	*静盲まつり発表 ・自分の生活の中での「危険な場所」通学路・自宅付近 ・各教科で体験・学習したこと「非常食体験・防災センター」		【舎生】 ・第五回避難訓練(地震) クロスロードを反映した訓練			

(2) 2年次(令和3年度)の実践

オ 防災教育の実践

11月	・第六回 避難訓練・地震 防災体験学習・ 非常食	・第六回職員研修 非常食について ・第五回職員研修 講師を招いての研修	・非常食体験	<特別活動>非常食体験 災害で役立つもの(グッズ)	第六回避難訓練(地震)	【舎生】 ・防犯訓練	・非常食体験		
12月			・教科G(3~6年):道徳:命について				・居住地 域防災 訓練参 加		
1月	・第七回 避難訓練・地震	・第七回職員研修 今年度の成果と課題		<国語>阪神大震災の体験をされた方の文をよんで (内容を知ったり、どうしたらよいか考えたりする)	第七回避難訓練(地震) 防災グッズ体験				
2月				<国語>東日本大震災の体験をされた方の文をよんで (内容を知ったり、どうしたらよいか考えたりする)					
3月						【舎生】 ・第六回避難訓練 防災学習 まとめ			

R2年度 3月19日の幼小学部会の検討内容

・防災センターの見学は2学期を候補とする。(子どもたちの学習の様子等で日を決める)R3は、4、6年が行くことにする。(学習内容に自然災害等があるため)R4以降は、高学年で1回行くように計画していきたい。また、校外学習に行く際には、具体的に対策を立てて万全にして出かけるようにする。

・「あおいも」について、個々に話をしているので学部全体で話を聞くことをしたらどうか。(1年生は一緒にできるようになったらやる)

・避難訓練は、毎月やる。学校全体がないときも月1でやってみてはどうか。地震と火災の両方をやっていきたい。全体での火災の訓練が少ないので、全体の訓練がないときには学部での火災の訓練を入れてはどうか。また、子どもによっては個別の対応が必要になる。例えば、2Fにいる桜井君は担いで1Fに下ろしたい。その時にハンマーは2Fにしかないのではどのようにするのか等考えていくこともある。

・教科グループでは、中学年(3年生)以上で訓練後にどうだったか話し合いができればよい。

・仮説トイレの体験⇒実際に座ってみることや、水分を吸収するものが固まる様子を体験する。

・3組の非常食体験を学校全体の他に1回設けているのは、食べるだけでなく、グッズについても考えたり試したりしたいため。それを保護者伝えて今後の参考にしてもらいたい。

・実際の災害の様子をビデオで観ることをしたい。(文科省から出しているものがある)

・防火扉や防火栓について、いつどのように閉まるのか教員も子どもも知らないのを知っておくとよい。(子どもによっては、やらないほうがよい場合もある)

・

※子どもの実態や学習内容や時期によって、取り組みたいことや必要なことを一年間の中に組み入れてください。

(2) 2年次(令和3年度)の実践

オ 防災教育の実践 ～幼小学部～



寝袋を使った宿泊体験学習、
防災食等、実際に触れて体験。

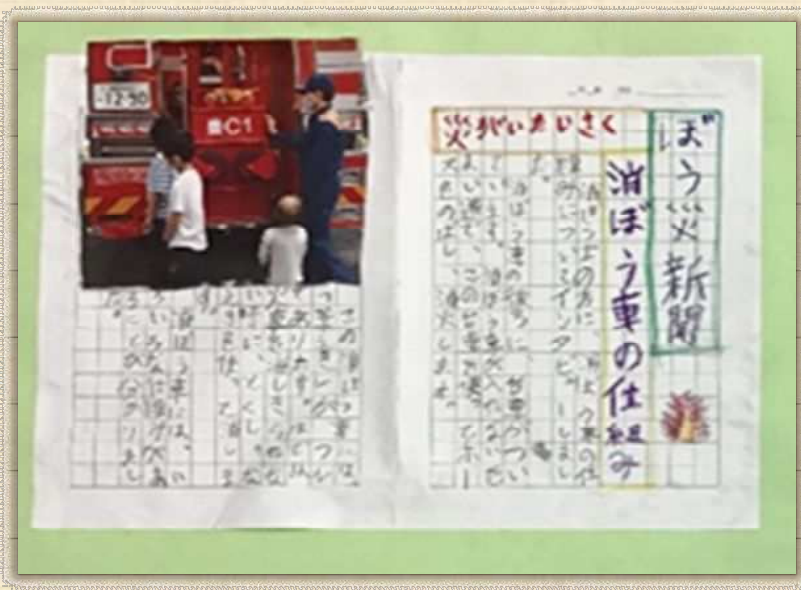
「みんなの防災すごろく」
ゲームを通じて防災知識が育った



(2) 2年次 (令和3年度) の実践

オ 防災教育の実践 ～幼小学部～

「地震・水害からそなえるまちづくり」
ぼうさい新聞の制作・アンケート結果を発表



(2) 2年次(令和3年度)の実践

オ 防災教育の実践 ～中学部～

◇自分の不安を弁論大会のテーマに



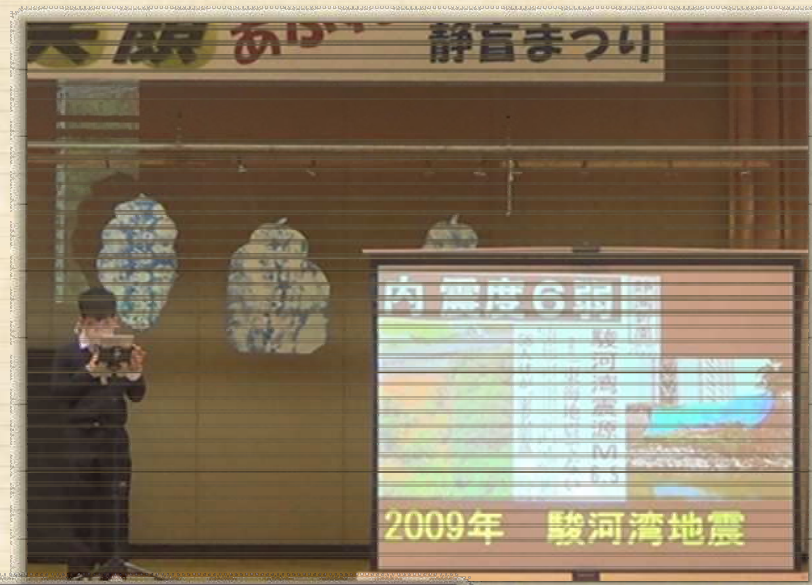
被災したらこわい！
自分の思いを伝える(避難所生活)

こわいを減らすために
見えにくさをまわりに伝える

(2) 2年次 (令和3年度) の実践

オ 防災教育の実践 ～中学部～

「なぜ？」から始まった、
事前の準備の大切さに
気付く学習



静盲まつりで発表

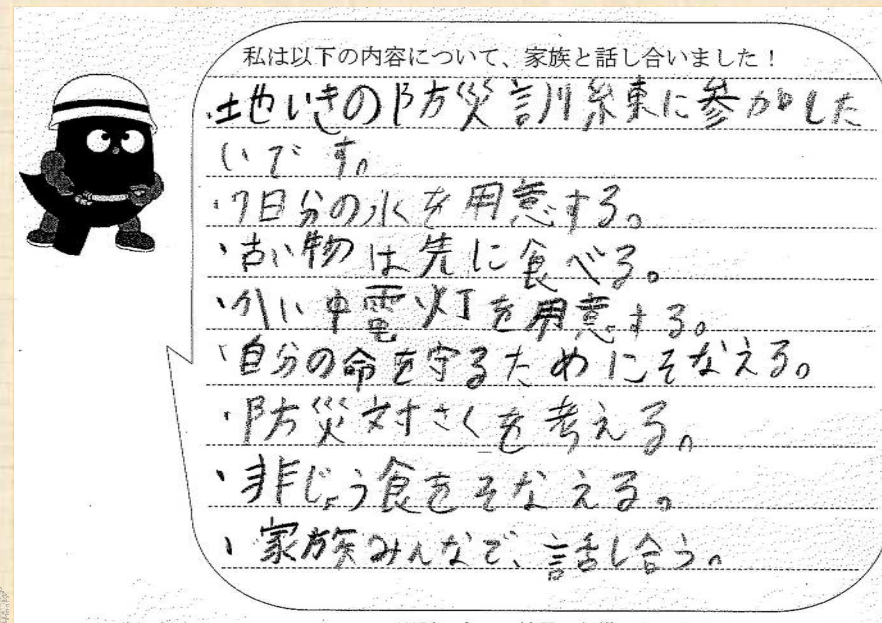


(2) 2年次 (令和3年度) の実践

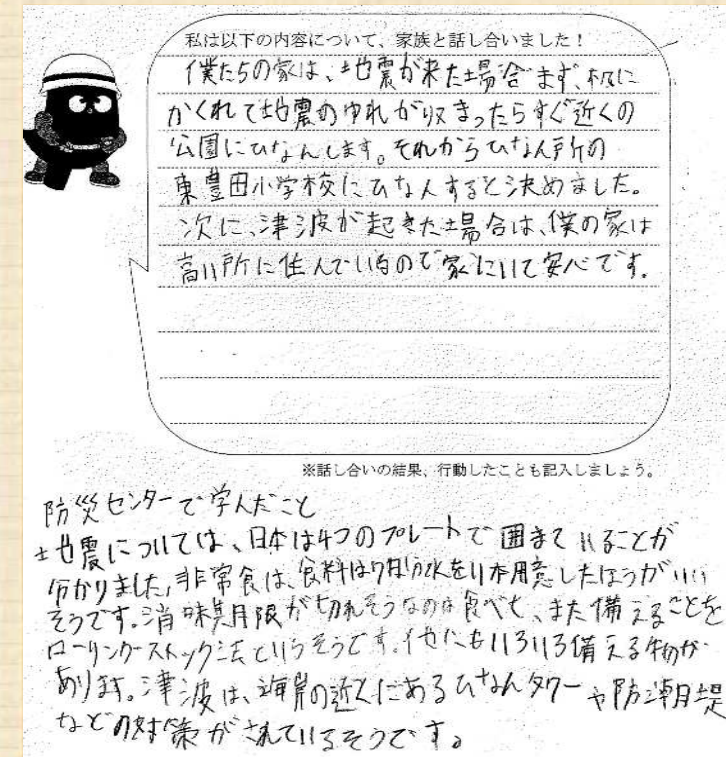
オ 防災教育の実践 ～小中学部4人～



ふじのくに
ジュニア防災士の取得



家族と話し合ったレポート



(2) 2年次(令和3年度)の実践

オ 防災教育の実践 ～高等部～

- ◇ 静岡県地震
防災センター見学
→ 震度7体験



図上訓練、シミュレーションから
まず自らの命を守る行動の模索